

廃止措置の進捗状況

令和元年11月28日

日本原子力研究開発機構 (JAEA)



廃止措置計画の変更認可申請に係る当面の工程案

令和元年11月6日
第34回東海再処理施設安全
監視チーム会合資料を一部修正

①～④:優先度

現在

項目	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31/令和元年度(2019年度)	令和2年度(2020年度)	令和3年度(2021年度)
TVF運転計画	17-ICP		19-ICP	工程検討中	21-ICP 22-ICP ▽保管能力満杯(420本) (固化処理をできるだけ前倒し(19-ICP・最大16本,21-ICP・最大10本)した場合)
全体の安全対策	申請 基本計画・スケジュールの整理 補正 基本設計	補正認可 申請(基準地震動、基準津波、 設計竜巻、火山影響) 申請(全体の安全対策)	補正 順次申請(詳細設計)	申請(対策を追記し、再申請) ①	
工程洗浄	洗浄方法・安全対策等の検討	安全対策の実施、設備の点検・整備	申請(性能維持施設、施設 定期検査を受けるべき時期) 補正	申請(詳細な方法、時期等) ③ 工程洗浄 当初計画を見直し	改造工事等
保管能力増強 (TVF)	基本設計は平成28年度までに終了 詳細設計	申請(基本・詳細設計)	補正 施工設計・製作 当初計画を見直し	増強工事 設計・製作・工事	工事工程を見直し ② 補正を予定
溶融炉更新(TVF)			新規保管施設に係る内部検討、概念設計、基本設計、詳細設計、施工設計	申請(詳細設計)	新規保管施設工事
焼却設備の整備 (LWTF)	基本設計 詳細設計	施工設計	申請(詳細設計)	申請時期検討中 機器製作・現地工事	
硝酸根分解設備・セメント固化設備の設置 (LWTF)	基本設計	申請(基本設計) 詳細設計	申請(詳細設計)	申請時期検討中 機器製作・現地工事	
その他許認可 (HASWS、HWTF-1)		基本設計	申請(基本設計)	申請時期検討中 申請 (HASWS:取出し建家) (HWTF-1:建家、先入れ機器)	申請 (HASWS:既存の上家撤去) (HWTF-1:後入れ機器) 建設

④
工程を見直す

本資料は進捗等に応じて適宜見直す

廃止措置計画の変更認可申請について

- これまで、廃止措置計画に記載した核燃料物質の回収や施設整備等の各プロジェクトの計画に基づき、廃止措置計画の変更認可申請を進めてきたが、廃止措置計画の申請から約2.5年を経過し、その後の検討・設計の進捗やガラス固化処理の停滞等の状況を踏まえ、計画の見直しが必要となってきた。
- このため、廃止措置計画の変更認可申請については、高放射性廃液に係る安全対策(事故対策)の申請を最優先で進めている(12月申請予定)。なお、TVFにおけるガラス固化体の保管能力増強については、安全対策(事故対策)の申請後、準備が整い次第、補正を提出させて頂きたい。また、TVF保管能力増強の許認可の進捗状況を見つつ、廃止措置を着実に進める観点から、工程洗浄に係る廃止措置計画変更認可申請を行いたい。
- その他(ガラス固化体新規保管施設、TVF熔融炉更新、LWTF、HASWS、HWTF-1)については各プロジェクトの進捗を踏まえ、リスク低減・全体の廃止措置計画への影響等の観点で優先度を検討した上で、変更認可申請の時期を見直す。



1. 廃止措置計画変更の概要及び進捗 申請済みの案件 (1/2)

令和元年10月7日
第33回東海再処理施設安全
監視チーム会合資料を一部修正

申請日	認可日	件名	備考
平成29年6月30日 (平成30年2月28日、 平成30年6月5日補正)	平成30年6月13日	廃止措置計画(原申請)	
平成30年10月10日	平成30年11月30日	①ガラス固化技術開発施設の工程制御装置等の更新 ②ガラス固化技術開発施設の設置(ガラス固化体容器の製作) ③溶融炉の間接加熱装置の交換及び製作 ④ガラス固化技術開発施設のガラス固化体 吊具の製作 ⑤焼却施設焼却炉の温度計取付用ノズル改造及び保護管等の更新 ⑥分離精製工場等のセル系排風機の電動機交換	設計・工事 案件
平成30年11月9日 (令和元年9月26日補正)	—	①基準地震動、基準津波、設計竜巻、火山影響	
平成30年11月9日 (補正準備中)	—	①ガラス固化技術開発施設におけるガラス固化体の保管能力増強等	設計・工事 案件含む
平成30年12月5日 (平成31年1月16日補正)	平成31年2月18日	①ガラス固化技術開発施設の溶融炉制御盤の更新 ②ガラス固化技術開発施設の固化セルインセルクーラの電動機ユニットの交換	設計・工事 案件
平成31年1月31日 (平成31年3月1日補正)	平成31年3月29日	①ガラス固化技術開発施設の溶融炉の間接加熱装置(予備品)の製作及び交換	設計・工事 案件
平成31年1月31日 (令和元年8月13日補正)	令和元年9月10日	①分離精製工場、放出廃液油分除去施設等の浄水供給配管の一部更新 ②クリプトン回収技術開発施設の浄水供給配管等の一部更新 ③管理区域境界に設置された窓ガラスの交換 ④動力分電盤制御用電源回路の一部変更 ⑤分離精製工場のアンバー系排風機の電動機の交換 ⑥分離精製工場プール水処理系第2系統のポンプの交換	設計・工事 案件
平成31年1月31日 (令和元年8月13日補正)	令和元年9月10日	①ガラス固化技術開発施設における放射線管理設備の更新	設計・工事 案件



1. 廃止措置計画変更の概要及び進捗 申請済みの案件 (2/2)

令和元年10月7日
第33回東海再処理施設安全
監視チーム会合資料を一部修正

申請日	認可日	件名	備考
平成31年3月20日 (令和元年8月13日補正)	令和元年9月10日	①アスファルト固化処理施設の浄水配管及び蒸気凝縮水配管の一部更新 ②第二アスファルト固化体貯蔵施設の水噴霧消火設備の一部更新	設計・工事 案件
平成31年3月20日 (令和元年11月補正予定)	—	①性能維持施設、安全対策、施設定期検査を受けるべき時期	安全対策の 内容を補正 で分割
平成31年3月20日	—	①硝酸根分解設備・セメント固化設備の設置	



2. TVFにおけるガラス固化体の保管能力増強等 － 面談におけるコメントへの対応 －

No.	日付	場所等	コメント内容	対応の考え方	補正の有無
1	令和元年 10月2日	面談	自然通風換気によりガラス固化体の冷却が維持されるとしている根拠について、評価方法、評価条件を示すこと。	自然通風換気時のガラス固化体の温度、ガラス固化体容器に生じる応力の評価方法やこれらの評価条件、評価結果を整理して、10月18日に面談を実施した。	有
2	令和元年 10月18日	面談	説明資料として相手の立場に立った資料となっておらず、全体的に結論ばかりが示されており、科学的、技術的な根拠に基づいた資料の構成や内容となっていない。適切な資料に修正して改めて説明すること。	科学的、技術的に評価を行っているが、評価に用いた前提条件、評価式や評価モデル、パラメータ等、説明資料になっていなかったことから、10月18日の面談を踏まえ、丁寧に記載し、改めて説明後、速やかに補正を行う。	有



3. 性能維持施設、安全対策、施設定期検査を受けるべき時期 － 監視チームにおけるコメントへの対応 －

No.	日付	場所等	コメント内容	対応の考え方	補正の有無
1	令和元年 11月6日	第34回東海 再処理施設 安全監視 チーム	早期のリスク低減のためのガラス固化作業ができない期間が長期にわたるおそれがあるため、監視チーム会合での指摘を踏まえて早期に対策を含めた申請を行うこと。	安全対策については、議論を効率的に行うため平成31年3月20日付の変更認可申請から分割する。事故選定及び重要度分類等の記載に具体的な事故対策に係る記載等を追加し、最優先で12月中に変更認可申請を行う。	有